

# 国際友好都市 中国朝陽市

## 朝陽市の概要

朝陽市は、内モンゴル高原から渤海沿岸の平原部に至る地域に位置し、中国遼寧省の省都・瀋陽市と首都・北京のほぼ中間にあります。人口約280万人、面積約2万km<sup>2</sup>で、遼寧省西部山域の政治・経済・文化の中心地となっています。

朝陽市の歴史は古く、歴史文化上、名高い都市です。漢の時代に「柳城県」という名で登場します。また、前燕・後燕・北燕の3つの王朝の首都でもありました。朝陽市内にある遺跡の発見により、「5千年前からここに原始社会国家が存在した」ことが判明し、中国の歴史を千年遡ることとなりました。

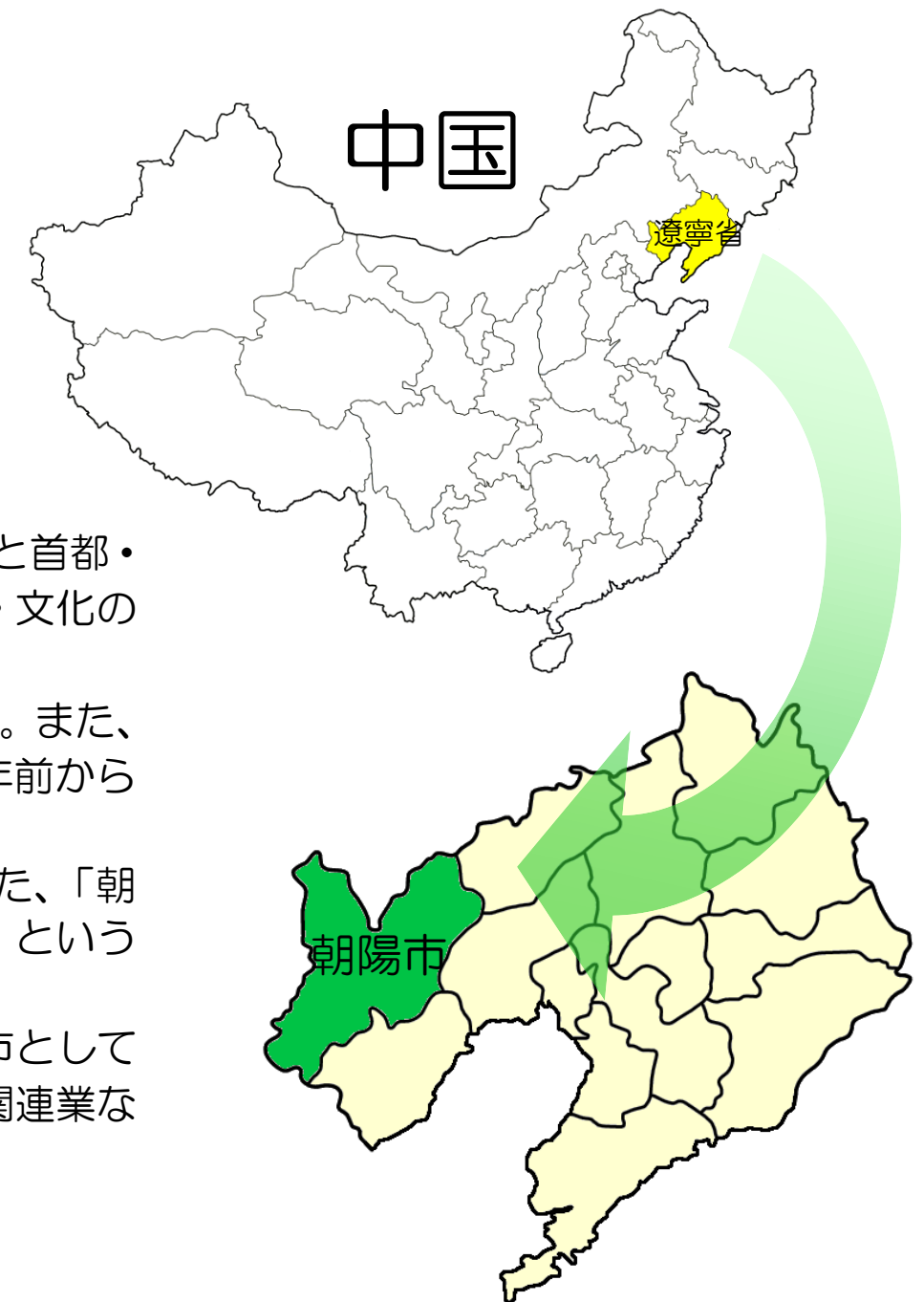
朝陽市の名前の由来は清代まで遡り、境内の鳳凰山の朝陽洞から来ていると言われています。また、「朝陽県志」によると、中国の古典「詩経」の「鳳凰は鳴く、彼の高岡に。梧桐は生ず、彼の朝陽に。」という句の意味を取って、「朝陽」の名がついたという説もあります。

産業は、農業を基幹産業とするほか、豊富な鉱産物を活かした鉱工業なども盛んで、新進工業都市としての一面もあります。農業では、馬鈴薯、小麦、ビートなど、鉱工業では、製鉄、食品加工、自動車関連業などがあげられます。

## 帯広市と朝陽市の関係

帯広市と朝陽市の交流は1985年5月30日、朝陽市からの経済視察団が帯広市を訪れ、同年9月、帯広側から中国東北地区親善訪問視察団15名が朝陽を訪問したことが始まりです。これまで訪問団の相互派遣や農業研修員の受け入れ、小学校間での児童の作品交換などの交流が行われてきました。農業および行政研修員は1987年からこれまで17回延べ51名を受け入れています。このほか、JICA（国際協力機構）を通じて農業・保健専門家等の派遣を行ってきました。

2000年（平成12年）11月17日に、朝陽市王大操市長を団長とする政府代表団が帯広市を訪れた際、15年にわたる交流の成果と、未来に向けて両市がさらに幅広い分野で交流を深め、両国、両市の友好と平和を一層促進することを目的に友好提携が結ばれました。





# 朝陽市の風景・街並み



鳳凰山国家森林公园



凌風大橋

## 慕容街

かつて、朝陽は慕容一族が建てた三燕の古都として栄えていた。歴史の雰囲気漂うこの街には骨董品やお土産の店が並び、両端に「北塔」と「南塔」があることで「双塔街」とも呼ばれている。



## 鳥化石国家地質公園

1996年朝陽で発見された孔子鳥化石は一億三千年前のものであり、「世界最古の角質の嘴を持った鳥」と称されている。ここには千件以上の化石が展示されている。



国宝級の文化財が発見された朝陽市内にある北塔